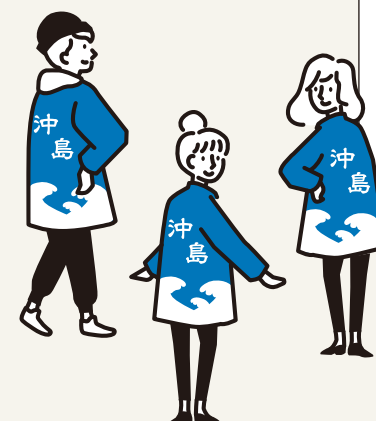
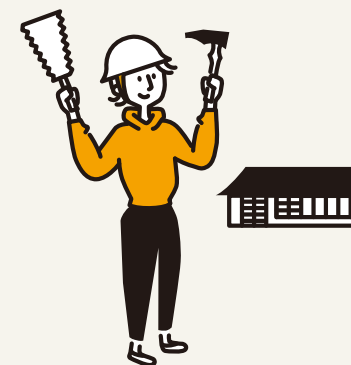




SDGsについて

2015年の国連サミットで採択された世界共通の目標です。限られた地球上の資源を使い果たすことなく継続的に利用し、誰一人取り残すことなく、環境・社会・経済におけるさまざまな課題の関係性にも考慮して、2030年までに達成すべき17の目標と169のターゲットが設定されています。

**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS**

CHECK!

近江楽座公式サイト

各プロジェクトの最新情報や楽座人物図鑑など
近江楽座についての情報が充実しています。



スマホの方はこちら！
<http://ohmirakuza.net>



近江楽座スタートブックは
環境に配慮した紙を使用しています。

学生が自ら 地域で学ぶ

近江 楽座

OHMI RAKUZA

START
BOOK

SDGsの達成に向けた「地域教育」



OHMI RAKUSA

近江楽座

近江楽座は「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」を
モットーに掲げる滋賀県立大学の学生教育プログラムです。

学生たちは地域の方々と一緒に活動することで、

学内では学べないことを体験します。

学生らしさを生かして地域に学び、育ち、貢献する。

そんな学びの場づくりを目指しています。

近江楽座プロジェクト [2019年度]

01	県営開出今団地コミュニティ再生プロジェクト 学生が住み、生かして、つながりを広げる
02	あかりんちゅ 廃棄されるろうそくを用いてエコでスローな夜を
03	地域博物館プロジェクト 地域文化財を救え!我ら学生学芸員! 詳しくは P.06
04	とよさと快蔵プロジェクト 古民家改修でまちを元気に! 詳しくは P.04
05	子ども学習支援サポーターズ 子どもの学習支援と居場所づくり

06	廃棄物バスターズ 目指せ!!リサイクル社会! 詳しくは P.07
07	かみおかべ古民家活用計画—SLEEPING BEAUTY— 「地域よし×学生よし×家主よし」の古民家活用プロジェクト
08	田の浦ファンクラブ学生サポートチーム 「復興」のその先へ。まちづくりをテーマにした復興活動
09	タクロバン復興支援プロジェクト 現地の人とともに暮らしをつくる 詳しくは P.03
10	障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト 障がい児・者とその家族の充実した余暇活動を支援
11	BAMBOO HOUSE PROJECT 竹林整備を通して、地域を育む

POINT
1

学生主体で活動

学生ならではの視点で地域の課題や魅力を見出し、プロジェクトを発足。厳正な審査で採択されたプロジェクトは、経費や教育指導等の支援のもと活動します。

POINT
2

幅広い分野の地域課題

これまで培ってきたノウハウや地域とのつながりを生かし、さまざまな分野の地域課題に取り組んでいます。



活動テーマ例

子ども	教育	福祉	健康
生活文化	伝統	調査	環境
防災	復興支援	まちづくり	ものづくり

POINT
3

多様な活動形態

目的や内容など、多様な地域活動に合わせたプロジェクトのタイプがあります。

▶ Aプロジェクト／学生主体型プロジェクト SDGsの視点も踏まえ「地域活性化への貢献」をテーマとする学生主体の地域活動を募集します。



新規プロジェクト・継続プロジェクト
16年間で延べ359のプロジェクトが活動しています。

田の浦ファンクラブ学生サポートチーム
東日本大震災で津波に襲われた宮城県歌津地区田の浦で、まちづくりをテーマにした復興支援・交流イベントの企画・運営を行っています。



Sプロジェクト
活動資金を必要とせず、これまでの実績をもとにステップアップを目指すプロジェクト。

あかりんちゅ

お寺などからやむなく廃棄されることになったろうそくを回収し、それを再利用したキャンドルの販売や、キャンドル作り教室、キャンドルナイトを行っています。また福祉作業所にテールライトキャンドルの製造を委託し、福祉に貢献しています。

▶ Bプロジェクト／地域協働型プロジェクト

自治体や企業、団体などから依頼のあった課題の中で、学生が中心となって取り組むことがふさわしいものについて、学生主体のグループを募集。指導教員と地域共生センターおよび依頼先とが協働でプロジェクトに取り組みます。



POINT
4

大学発地域貢献の先進的な取組として高く評価

「大学SDGs ACTION!AWARDS 2019」において、とよさと快蔵プロジェクトがスタディツアー<下川町×JAL>賞を受賞するなど、近江楽座の取組は学外でも高く評価されています。



陶器研究室+たけともミライ

「第9回毎日地球未来賞」の奨励賞を受賞



政所茶レン茶ー、座・沖島

「しがのふるさと支え合いプロジェクト」協定締結



12	Taga-Town-Project 学生目線で多賀のいいところを発信
13	おとくらプロジェクト 人と人をつなぐコミュニティスペース
14	政所茶レン茶ー お茶づくりから地元の文化や暮らしを学び、伝える 詳しくは P.05
15	木興プロジェクト 建築で被災地の復興支援・まちづくりを目指す
16	未来看護塾 地域みんなの健康守り隊! 詳しくは P.08
17	たけともミライ 宮城県気仙沼市で「竹の会所」とともに歩む

18	フラワーエネルギー「なの・わり」 休耕田を活用したバイオディーゼル燃料の精製
19	とよさだプロジェクト 耕作放棄地での野菜作りで地産地消促進を目指す
20	座・沖島 沖島でまなぶ・まじわる・ささえる
21	内湖の再生と水辺のコーディネート 琵琶湖内湖の生態系を守る
22	Jesuit House Project 建築遺産を生かした地域拠点づくり
23	ハティヤール村カディプロジェクト 糸つむぎから始まる自立支援型モデル



タクロバン復興支援プロジェクト

活動開始年：2015年

メンバー：11名

活動場所：フィリピン レイテ州タクロバン

関係団体：San Carlos大学 他



現地の人とともに暮らしをつくる

2013年の台風により大きな被害を受けたフィリピンのレイテ島タクロバンで、復興支援を目的に活動しています。コミュニティの再建を目指して、場を作るだけでなく作る過程や調査などを地域の方と共同で行うことで、持続可能な暮らしづくりをしています。

地域の声

現地協力者 Marife Juano さん

チャペルを再び建設してくれたことを感謝しています。日本から多くの方が来てくれて、我々も子どもたちも楽しい時間が過ごせました。チャペルで会議やイベントを開催でき、嬉しく思います。一方で地域のコミュニティがまとまらず、掃除やメンテナンスをできていなかったことに課題を感じています。2019年12月の台風でチャペルが倒壊してしまったことは残念でしたが、今後も交流を重ね、チャペルが再び建つことを願います。

学生の声

岩田 慧
(環境科学部 環境建築デザイン学科 2回生)

建築のモノとしての性質と、コトとしての性質を同時に体感できた貴重な機会でした。集会所がなかったニューホープヴィレッジにコミュニティチャペルというモノを建設。それに伴い、関わった現地の住民や僕たち学生がいることで、ミーティング場や礼拝堂になったり、子どもたちが遊び場にしたり、さまざまなコトが生まれました。モノとコトが同居する空間は本当に居心地がよくて、この感覚を忘れないようにしようと思いました。



とよさと快蔵プロジェクト

活動開始年：2004年

メンバー：113名

活動場所：滋賀県犬上郡豊郷町

関係団体：NPO法人とよさとまちづくり委員会



古民家改修でまちを元気に！

豊郷町に多く残る空き蔵や空き家を地域資源として捉え、学生なりの視点で改修・再利用。改修した物件の活用方法や運営方法の模索、物件を使ったイベントの企画、町内イベントの参加や運営、BARの営業など、豊郷町を拠点に幅広く活動を行っています。

地域の声

NPO法人とよさとまちづくり委員会 北川 稔彦 さん

2019年度は、大町地区にある一戸建の物件を3人家族に貸し出すという設定で改修してくれました。グループごとに改修案を考えて、プレゼンテーションを実施。“「小人と暮らす家」～広がる世界～」に決まり、夢のある温かな改修を行ってくれました。また、子どもたちとのどろんこまつりも賑やかに開催してもらいました。先輩たちもそうであったように、活動を通して豊郷に親しみを持ってくれることを嬉しく思います。

学生の声

萩原 咲楽
(人間文化学部 生活デザイン学科 3回生)

1年間、「まちづくり」を意識して活動してきました。その結果、「豊郷町が好き!」と言ってくれる町民や学生が増えたこと、そして「まちづくりに力を入れたい」と思ってくれる後輩ができたことがとても嬉しかったです。こうした思いが広がっていくことが、最大のまちづくりなのではないかと思いました。





政所茶レン茶

活動開始年：2013年

メンバー：21名

活動場所：滋賀県東近江市政所町

関係団体：政所茶縁の会



お茶づくりから地元の文化や暮らしを学び、伝える

希少な在来種の銘茶「政所茶」の産地として古くから知られている東近江市政所町では、過疎高齢化により茶の栽培の困難、後継者不足などの課題を抱えています。そこで学生たちで茶畑を借り、地元農家から指導を受けながら茶づくりや販売を実践し、政所の魅力を発見・発信しています。

地域の声

政所町住民 清水 美紀子 さん

地元出身の人たちの多くが、盆やお正月くらいしか帰ってこない中、大学生が1年を通して政所を訪れているのはとてもありがたいです。政所茶の生産農家さんたちも、若い人が同じようにお茶づくりに携わっていることで、張り合いも出ていると思います。これから一緒に頑張っていきましょう。今後はお茶づくりだけでなく、政所の地域活性化にもさらに活動を広げてもらいたいです。

学生の声

小竹 智菜
(人間文化学部 地域文化学科 1回生)

お茶の収穫や地域のイベントへの出店など、今まで通りに暮らしていたら経験しなかったであろう、実りのある時間を過ごせたと感じています。また話を聞くだけでなく、実際に現場に入ること、難しさも含めた地域活性化の実情や地域の方々の想いにも触れ、考えを深めることができました。



地域博物館プロジェクト

活動開始年：2012年

メンバー：30名

活動場所：学内／彦根市／米原市／高島市／近江八幡市

関係団体：白谷荘歴史民俗博物館



地域文化財を救え！我ら学生学芸員！

民具や古文書、お祭りなど、地域の歴史に深く関わる“地域文化財”を地域の歴史・文化などと合わせて住民の方々と調べ、“地域博物館”をつくりあげていく。この過程から、地域の魅力の再発見をお手伝いし、魅力を発信する場をつくっています。

地域の声

白谷荘歴史民俗博物館館長 川島 光男 さん

長年に渡り白谷荘歴史民俗博物館の内部資料の調査・整理・維持・保存に携わっていただき感謝しています。当館に立ち寄る多くの方からも関心を寄せてもらっています。今後は、これまで以上に情熱不足・知識不足・アピール不足を若い皆様に補ってもらいながら、当館の資料をさらに活用していきます。学生の皆様には身をもって地方の地域の歴史を感じてもらい、自身の将来のお役に立てていただければと思っています。

学生の声

川島 栄里子
(工学部 材料科学科 3回生)

近江八幡^{よし}で葎卸業を営んでおられる西川家での古文書の調査を中心に、高島市の白谷荘での調査を行いました。近江八幡の地場産業でもあるヨシについてお話を伺い、また古文書にも触れました。きちんと保存してあるわけではなく劣化しているものが多くあったので、自分たちの活動の必要性を実感しました。米原の調査では古民家の模型の作製を行い、当時の暮らしがわかるとても良いものができました。





廃棄物バスターズ

活動開始年：2005年

メンバー：18名

活動場所：彦根市／滋賀県内・外

関係団体：社会福祉法人いしづみ会 他



目指せ！リサイクル社会！

廃棄プラスチックを再利用したリサイクルプランターや、新たなリサイクル製品である雨水タンクに着目し、企業と連携して開発を行っています。就労支援施設と連携したhana-wa活動や清掃活動、一般社団法人滋賀グリーン活動ネットワークにも参加し、地域とのつながりの強化を図っています。

地域の声

社会福祉法人いしづみ会 八田 尚樹 さん

廃棄物バスターズとPCR(ペットボトルキャップリサイクル)作業所連絡会との協働活動も10年が経過しました。プランタリース活動ではPCR作業所の利用者(障がいのある方)と仲良くコミュニケーションをとりながら、花の手入れを行っています。他にも、バスターズには柔軟な発想力で新たな製品や企画の提案をしてもらい、今後の展開において重要な役割を担ってもらっています。これからも協力お願いいたします。

学生の声

前田 麻美
(工学研究科 材料科学専攻 修士1年生)

2019年度は積水化学工業株式会社多賀工場・積水多賀化工株式会社から声がかかり、ゼロから清掃活動イベントを実施することができました。事前調査や複数回の打ち合わせ、行政への連絡、小学生から大人まで楽しんでいただくための企画など事前準備は大変でしたが、実施後の参加者からの声を聞いて達成感を覚えると同時に、活動にはたくさんの方々のお力添えが必要不可欠だと実感しました。



未来看護塾

活動開始年：2004年

メンバー：169名

活動場所：学内／彦根市／滋賀県内

関係団体：彦根市立病院／特定非営利活動法人NPOぽぼハウス 他



地域みんなの健康守り隊！

人間看護学部が中心となって立ち上げた地域貢献活動プロジェクトです。地域に住むさまざまな人々との交流や病院でのリラクゼーション活動などの健康支援活動を通じて、心も身体も健康にその人らしく生きることを志向するとともに、未来の看護のあり方を考えていきます。

地域の声

彦根市立病院 藤井 裕子 さん
(看護科長補佐、老人看護専門看護師、認知症看護認定看護師)

未来看護塾の皆さんには、病院内のデイケアでお手伝いいただいています。認知症の患者さんに温かく手を添え、寄り添い、行事やゲームでは大いに盛り上げていただき、御家族も驚かれるような患者さんの笑顔をたくさん引き出してもらっています。また、クリスマス会では、プレゼントを用意していただき、患者さん同様にとても嬉しい気持ちになりました。院内デイケアの開催にはなくてはならない存在として、感謝しています。

学生の声

青柳 光哉
(人間看護学部 人間看護学科 2年生)

地域に住むさまざまな方々と関わらせていただく中で健康状態や年齢、個性を理解する重要性を学び、同時に地域が求めるニーズは自分の足で現地に入ることでようやく見つかるものだ学びました。また、プロジェクトを通して自分の中で、看護に対する思いが徐々に利用する相手中心になっていくことを感じました。



「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに「地域に根差し、地域に学び、地域に貢献する、人が育つ大学」として独自の教育活動を展開してきた滋賀県立大学。開学以来、持続可能な暮らしにつながる知恵や技法を地域から学び、探究してきました。これらの取組は、今日のSDGsの理念につながる取組でもあります。「地域貢献大学のリーディングモデル」を目指し、持続可能な社会の実現に向けて、ともに学び、育ち、未来を切り拓く拠点でありたいと願っています。

▶ SDGs宣言

世界および地域の持続的な発展に貢献することを目指し、2018年6月に「滋賀県立大学SDGs宣言」を行い、本学のSDGsにかかる取組姿勢を対外的に発信しました。



滋賀県立大学SDGs宣言

- S | 滋賀県立大学は「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに
- D | 誰一人取り残さない持続可能な社会を目指し
- G | グローカルな思考と実践をもって
- s | 世界と地域の発展に貢献します

▶ 地域教育プログラム

本学では、地域課題に応える「未来志向の変革力を身につけた人材」を育成するため、教員や地域人(※)の方による地域教育プログラムを実施しています。高い専門性を身につけ、俯瞰的に物事を見る能力はもちろんのこと、地域での実践を通して現実起こっている諸問題に創造的に取り組み、変革する能力と態度を養っています。

全学生が学ぶ地域基礎科目「地域共生論」

1年次の全学部生対象の必修科目で、環境科学部、工学部、人間文化学部、人間看護学部の約600人の学生が学部の枠を超えて一緒に学びます。各学部から提供されるテーマについて学生がグループワークを通じ、SDGsの視点を交えて考えるとともに、他者を理解し、共感と豊かな対話を可能とするコミュニケーション力を養成します。



夏期集中講義「SDGsと滋賀のグローバル・イノベーション」

琵琶湖を守り、環境・社会・経済の調和を大切にする滋賀の暮らしをもとに県内複数大学の学生がともにSDGsを学ぶ単位互換科目です。

※地域人：地域活動の実践者で本学の地域教育プログラム履修者に対して指導・助言などを行っていただく方々

▶ キャンパスSDGsびわ湖大会

2019年11月16日、「キャンパスSDGsびわ湖大会」を開催しました。県内外から学生を中心に小中高生を含む若者や企業・地域の方々など、412名が参加しました。世代や立場を超えてさまざまな人が出会い、対話し、行動する、SDGsの交流・発信の拠点としての役割を果たしており、今後も継続して実施します。



県内外から多数の大学生、小中高生が参加



学生を交えたパネルディスカッション



取組を紹介するポスターセッション

▶ SDGs連続講座

SDGsの視点を持った地域づくり活動のリーダーなど、キーパーソンを育成するワークショップを活用したSDGs連続講座を実施しています。幅広い年代のさまざまな経験や専門性を持つ受講者が、現在取り組んでいる・これから取り組もうとしているSDGsに関する活動の様子やその思いをインタビューで語り、聞き、記事にまとめる体験型の講座を3回シリーズで実施しました。



▶ SDGs出前講座&落語

県内外の行政機関や教育機関、企業などから要望を受けて、学内教職員を講師として派遣し、講演やワークショップを実施。SDGs落語では笑いを通してSDGsを自分ごととして考えるきっかけづくりをしています。



▶ 生協ショップにSDGsコーナー

本学は2020年2月5日に滋賀県立大学生生活協同組合と連携協定を締結。その一環として学内の生協ショップにSDGsコーナーを新設しました。ショップ内のコーナーでは「近江楽座」の活動を通じてつくられたお茶やキャンドルをはじめ地元産米粉のスイーツ、SDGs関連書籍などを販売しています。



▶ 近江楽座

近江楽座の活動はSDGsの達成に向けた取組と深い関わりがあります。

SDGs達成に向けて 近江楽座専門委員会 委員長 印南 比呂志 (人間文化学部生活デザイン学科 教授)

これからの社会を持続可能にいくために、学生の皆さんがアクターとして地域に入るとともに多くの課題に向き合っていくことを、滋賀県立大学は全面的にバックアップします。その中で、学び、地域を支える視座を持ち、社会への橋渡しを担う人材として育っていくことを期待しています。本冊子で紹介した近江楽座の活動は学生と地域をつなぐ学びの場づくりなのです。



近江楽座キャラクター
メイミ